

【鹿児島県三島村】

三島村 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)等の内容及びこれらに引き続く政府の議論等では、ICTの活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を一体的に充実し、子供たちの資質・能力を育成することを求めている。

この内容を踏まえて、当村では、「明日を共につくる心豊かでたくましい人づくり」を基本目標とした「みしまスタイルの小中一貫教育」を一層推進するとともに、子供たちが持続可能な社会の創り手として成長するために、1人1台端末を効果的に利活用し、一人一人の児童生徒の理解度や学習ペース等の実態に応じた学習計画に基づく学びの具現化を目指す。

また、「オンライン授業の日常化」の充実を図るため、遠隔教育システムや共同学習ツール、MEXCBT等のICTの活用を推進し、通信ネットワーク環境等を一体的に整備するとともに、端末の効果的な利活用を図る。

2 GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和2年度に当村の全児童生徒に1人1台端末及び全学校における通信ネットワーク等を整備した。そして、学校現場における教科や学習場面に応じた学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図ってきた。

授業における1人1台端末の活用については、調査活動や学習のまとめ、ドリル計算ソフトによる演習等を中心に定着しつつあるが、個の考えをまとめ、情報を共有したり、比較・検討したりするなど学習者主体の授業改善につながる活用を今後も一層進める必要がある。例えば、端末を積極的に家庭へ持ち帰らせ、ドリル課題やレポート作成等を家庭学習で取り組ませることで、児童生徒の学習意欲が維持・向上できるよう努める。

運営支援については、教員が主体となって、ネットワークトラブル等の早期解決を図り、児童生徒の学習環境に支障が生じないように努めてきた。また、タブレットの不具合や故障、破損等によるトラブルが見受けられた場合は、学校保管の予備機で対応した。

一部の学校では、ネットワークの接続が不安定で端末操作ができないという事象も起きていた。その場合は、役場のシステムエンジニアと連携しながら各学校の受信状況を点検するなどの対応をとってきた。令和6年度にはネットワークを

公設民営へ変更したことから、データ通信量が増え、安定性が増すことが期待できる。

3 1人1台端末の利活用方策

当村では、令和7年9月から1人1台端末環境を維持できるよう、全児童生徒分に予備機を合わせた1人1台端末の更新を行う。

次に、端末を日常的に活用しながら「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学習」の実現に向けた更なる授業改善をめざす。

各学校では、1人1台端末の日常的な利活用を更に促進するとともに、例えば山海留學生の帰省時や船便の欠航等により帰島できない場合など、様々な状況に応じた児童生徒に対する支援を積極的に行う。また、児童生徒が端末を活用して「過去の記録や自分の姿を振り返ること」や「自分の考えをまとめ、発表・表現すること」、「教職員や他の児童生徒とやりとりすること」などを行うことで自分自身の学習状況を適切に判断・検証できるようにする。そして、それらの教育活動を通して今の自分に望ましい学習スタイルや学習方法を試行錯誤しつつも身に付けていくことで、個々の学びの深まりや広がりにつなげるようにする。